

投手の投球数制限の運用について

■投手の投球数制限

一人一日 70 球以内（4 年生以下 60 球以内）とし、70 球に到達した場合はその打者が打撃を完了するまで投球できる。
※70 球以内であれば他の守備についても再び投手に戻ることができることとする。

「スポーツを通じた子どもの健全な成長をサポートする」子どもの権利とスポーツの原則、「学童野球の育成主義」に基づき、「医学的見地」「競技運営とチーム編成」を考慮し設定されています。

■投球数を数える運用

1. 担当者：

試合当該の各チームから 1 名ずつ、対戦相手チームの投球数を数える人員を協力いただく。（チームスタッフがバターだが、保護者の方でもよしとする。）

2. 方法：

得点版（めくるタイプ）を投球一球ごとに速やかにめくる。（ボークの時も投球していれば、数える。）

3. 設置場所：

試合本部席の各ベンチから見える位置に得点版（めくるタイプ）を設置する。

4. 投手が交代した場合：

別紙の「投手の投球数表」に背番号・投球数を記載し、得点版は“00”に戻し、交代した投手の投球数をカウントする。以前に投球した投手が再び投手に戻り、更に交代した場合は、「投手の投球表」の当該投手の同じ行に投球数を記載する。

5. ベンチから投球数について確認があった場合の処置：

試合当該ベンチのいずれかから球審に対して本部席投球数の確認があった場合、

→両チームの監督と本部席は、本部席で本部席とそれぞれ両チームスコアラーが数えた投球数を確認する。

→2 者が同一数の場合は、多数決とし、

→3 者すべての数が異なった場合は、本部席を正とする。

当該イニングで 70 球に到達しそうでない限り、いたずらにイニング途中で確認をしないこととし、イニング終了時の確認とする。

次イニングのプレイがかかった時点で、本部席投球数を正とする。

※タイマーは止めないので、それぞれ速やかに対処をすること。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関する対策

■各チーム選手、指導者、スコアラー、給水担当、応援者

1. 自宅にて検温し、風邪症状、倦怠感、息苦しさ、味覚異常の有無を確認しチェックシートに記録。
2. 試合会場までの移動時及び会場内での待機中はマスクを着用する。
3. 観戦者は人と人との距離を 2 m 程度確保し、選手等はベンチ内でも極力距離を保つ。
4. 試合前、試合中、試合後は円陣・声出し・エール交換・応援歌合唱などを行わない。
5. マスクは、試合出場中の選手およびランナーコーチの着用は任意、ベンチ内では全員着用する。
6. ハイタッチ、グータッチ、ハグなど肌の直接触れ合う行為は控える。
7. ベンチ外の応援は密集、密接にならぬよう留意し、大声での応援は行わない。
8. チーム共用のジャグ、ボトルの使用は禁止。試合中の審判へのお茶出しはしない。

■大会運営の対応

1. 健康チェックシートの確認及び管理をおこなう。（選手・指導者、応援者、大会運営係・審判員）
2. 試合会場、本部席に消毒用品を設置する。
3. 参加者の人的接触機会を減らすため、試合間のインターバルを通常より長く設ける。
4. 感染者発生報告を受けた場合、大会本部経由で練馬区体育協会に報告し二次感染防止に努める。
5. 試合後 2 週間以内に当該感染症を発症した場合、各所属連盟に濃厚接触者の有無等を報告する。
6. 審判員のマスクは任意とし、記録員、控え審判、立ち合い役員はマスクを着用する。
7. 試合前の先攻後攻決めの際、握手はしない。試合開始、終了時はベンチ前で整列、挨拶を行う。
8. 施設内での唾、痰を吐く行為は厳禁とする。